

広島県立大学法人

叡啓大学
EIKEI UNIVERSITY OF HIROSHIMA

ソーシャルシステムデザイン学部で夢を追求 実践教育軸に課題解決力培う

叡啓大 オープンキャンパス

3月27日(金)
9:30~15:00(9:00会場受付開始)

午前は「大学紹介」や「入試説明・解説」、「学生活動発表会」を通して、本学の学びや入試制度、在学生の活動をご紹介します。午後はワークショップ形式の模擬授業を実施します。このほか、教職員と在学生による個別相談やマンツーマンのキャンパスツアーも行います。お申し込みは3月26日(木)15時まで。

お申し込み



企業等が抱える課題を解決 「共創プロジェクト・ひろしま バリューシフトプログラム 最終報告会」

3月26日(木) 16:00~19:30

企業の新たな価値創造に取り組む叡啓大が企業、学生、客員研究員と共に進めてきた二つのプロジェクトの成果とそのプロセスを報告します。経営者の方にお勧めです。対面とオンラインで実施します。お申し込みは3月25日(水)まで。

お申し込み



ソーシャルシステム
デザイン学科4年
木村 彩乃さん
(静岡県立富士東高出身)

そして自らビーガン(完全菜食主義者)となり、動物福祉実現への課題を模索する中、叡啓大の「解のない課題に挑む」という教育方針に心を動かされ、入学を決めました。

叡啓大は各授業の8割がアクティブラーニングです。PBLでは企業さまざまな課題を題材に、徹底的に議論することで「真の課題の特定」を探るスキルを養いました。

卒業後は海外でビーガンレストランの開業を目指しています。資金の一部はクラウドファンディングで募りました。将来は日本の小中学校を巡り、動物の権利やビーガンの選択肢があるということを伝える啓発活動に携わりたいと考えています。

叡啓大では実現したいテーマに向き、実践的に学ぶことができます。意識の高い学生が多く、お互いに議論しながら進められる環境も魅力です。



試食会で料理を提供する
木村さん

ビーガン食で「動物福祉」啓発へ

静岡県内の大学で教育心理学を学んでいましたが、2年生の春に中退して叡啓大へ再入学しました。家族と訪れたペットショップで値下げされている現実を改めて認識したのがきっかけで、ペットの生体販売や、牛・豚の食肉処理の実態を調べ、動物が幸せに生きるために私たちが取るべき行動を考える「動物福祉」について深く考えるようになりました。

卒業プロジェクトでは、学食へのビーガンメニュー常設に挑戦。東京にある食品開発会社や、食品などに對してビーガン認証をするNPOでのインターンシップを経て、ビーガンの市場や食品開発の実態などを学びました。これらの経験を基に、自分でもビーガンのタコライスとガパオライスを学食メニューとして開発。女子美術大学(東京)で試食会を開き、学生30人の9割以上に「おいしい」と評

価されました。

広島県立の叡啓大(広島市中区)は、持続可能な開発目標(SDGs)を意識したリベラルアーツを基に、アクティブラーニング(能動型の学び)や課題解決演習(PBL)を軸として企業や自治体、国際機関と連携し、課題解決力を培う教育を展開。日英両言語による授業や国内外でのインターンシップ、ボランティアを通じて五つのコンピテンシー(グローバル・コラボレーション力、先見性、戦略性、実行力、自己研鑽力)の向上を図り、地域から国際社会まで貢献できる人材を育成しています。4年生の米原真奈さんと木村彩乃さんに、同大での学びや目標を聞きました。



ソーシャルシステム
デザイン学科4年
米原 真奈さん
(徳島県立城南高出身)

高校時代、日本の若者がヒマラヤに学校を設立するプロジェクトが書かれた本を読んで感動しました。将来は国際協力に携わりたいと先生に相談すると、「グローバルな学修環境で実践的に学べる」と薦められたのが叡啓大でした。その言葉通

視覚障害者教育の充実化へ提言

り、入学してすぐに約半年間の「英語集中プログラム」が始まりました。その後はほぼ全ての科目が英語と日本語で実施され、自然に英語を使いこなせるようになりました。

2年生の春にネパールの小学校で約3週間の授業ボランティアを体験。日本に関するクイズを出したり、言葉教えたりました。集大成科目である卒業プロジェクトは、障害の有無にかかわらず共に学ぶインクルーシブ教育を踏まえ、「ネパールの視覚障害者教育」をテーマに設定しました。4年生の夏に再びネパール

を訪れ、約2カ月間のフィールドワークに取り組みました。ネパール盲人福祉協会(NAWB)と連携し、ルンビニなど7都市10校を巡って教育の現状を調査。校長や教員、視覚障害のある生徒らに話を聞くと、教員の熱意と生徒の学習意欲は高い一方、点字教材の不足や数学の図形など視覚的内容の指導に苦慮する実態が浮かび上がりました。

プロジェクトでは教員の専門性や指導技術を高めることを最重要課題とし、研修制度の導入などを提言。経験を生かし、卒業後はインクルーシブ教育への取り組みが進む英国の大学院で研究を続けたい。

叡啓大の魅力は、興味や関心を「入り口」とし、可能性を広げていけるカリキュラムが充実していること。国際機関と連携するなど社会に触れる機会も多く、広い視野を身に付けることができ



教員たちに話を聞く米原さん

